

秋田大学腎泌尿器科学講座の成田伸太郎と申します。昨年 4 月に編集委員を仰せつかり、初めて編集後記を書かせていただいております。本号は原著 1 編、症例報告 5 編の掲載となりました。掲載論文を通して読ませていただき思ったことが 2 つございます。

1 つ目は徹底した治療前診断の重要性です。本号の症例報告では術前に施行された興味深い画像を多く添付いただいておりますが、実地診療では手術を行った後に実は稀な病態であったことに気が付くということを経験します。本誌査読でも同様の経過を目にすることがございます。術前のルーチン検査で通常な病態と合致しない所見がある場合は、ぜひ納得のいくまで追加検査を考慮することが重要かと感じます。過度な検査施行も問題ですが、臨床の感覚で納得できない部分があればぜひ徹底した術前検査を心がけていただきたいと思います。このことが手術時の「想定外」を防止すると同時に、症例報告にもつながるより詳細な振り返りや深い考察ができるのではないかと感じます。

2 つ目は、本号掲載の報告はいずれも従来型の腹腔鏡手術の話題でありました。昨今ロボット支援手術の普及が目覚ましい状況です。手術支援ロボットという新たな modality を用いた手術が一般化することで新たな疑問や気づきが数多く生まれているのではないかと感じています。私自身の分野でもこれまで腹腔鏡で行っていた手術を da Vinci surgical system で行う機会が増えました。利点、欠点、「こつ」など、従来型の腹腔鏡手術と異なる点が多々あるかと思っています。ぜひ今後は本誌においてもロボット支援手術をテーマにした投稿も増えてくることを期待したいと思います。最近は投稿論文の数がやや減少傾向にあると聞いております。本雑誌編集は幅広い内視鏡外科分野から申請される投稿論文を分野の違う編集委員が科横断的に議論しあうきわめて貴重な機会と感じております。編集会議は基本的にはポジティブなスタンスでどのようにすれば投稿いただいた論文を掲載できるのかを中心に議論しております。分野の違う医師から広い視野で多角的に意見を受ける機会は少ないと思います。投稿が不採用の場合も根拠を明示し、真剣に申請者へお送りしているつもりですので、自身のスキルアップのためにわれわれを利用する気持ちでどしどし投稿いただけたらと思います。

(成田伸太郎)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 27 巻 第 2 号) 2022 年 3 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 価格: 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

2022 年 年間購読料: 18,018 円 (税込) * 学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 坂井義治)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses@convention.co.jp (担当: 吉富, 平澤, 渡部)

<http://www.jses.or.jp>

発 売: (株)医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 高島, 安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 270F2700027002000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療、研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●症例報告

95 歳以上の超高齢大腸癌患者に対し腹腔鏡補助下の大腸癌根治切除術を行った 2 例

.....額田 卓・他 神奈川県立がんセンター
胃癌術後に腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術を施行した残胃 GIST の 1 例

.....甲斐田 大貴・他 福岡大学筑紫病院外科
腹腔鏡下修復術を施行した高度肥満の白線ヘルニアの 1 例

.....間瀬 純一・他 岐阜大学大学院医学系研究科消化器外科・小児外科
TEP 法により修復した水腎症を伴った鼠径部尿管ヘルニアの 1 例

.....山本 真大・他 原三信病院外科

誌面の都合により変更がある場合があります。あらかじめご諒承ください。